

27人のガン患者におけるMGN-3（米ぬかアラビノキシラン誘導体）のNK免疫調節機能

マンドゥー ゴーナム、ガラール ナマタラ
ドゥルー医科大学耳鼻咽喉科

27人のガン患者に対しMGN-3の免疫調節機能を調べた。

MGN-3は、糸状菌類の菌糸由来の酵素によって修飾された米糠から抽出したアラビノキシランである。

患者は異なったタイプの進行した悪性腫瘍患者で、乳ガン7人、前立腺ガン7人、多発骨髄腫8人、白血病3人、子宮頸ガン2人である。

全ての患者が通常のガン治療を受けながら、同時に1日3gのMGN-3を投与され、投与開始後2週間、3ヶ月、6ヶ月のNK細胞活性を調べた。

NK細胞活性は、K562腫瘍細胞を標的細胞とし、エフェクター対ターゲット比12：1から100：1の条件で⁵¹Cr遊離法で測定した。

その結果、1) NK細胞活性の基礎レベルが低い患者について。

2) MGN-3を投与するとNK細胞活性が2週間目に著しく増加した。活性の増加パーセントは次の通り。

乳ガン 154-332%、前立腺ガン 174-385%、白血病 100-240%、多発性骨髄腫 100-537% 子宮頸ガン 100-275%。

3) NK細胞活性の強化は投与後3ヶ月、6ヶ月目においても引き続き観察された。

我々は、NK細胞の活性を高度に増加させるMGN-3が、ガン治療における有望な免疫療法剤であると結論する。

MGN-3は大和薬品株式会社により提供された。

原著掲載誌：

Proceedings of the American Association for Cancer Research

Vol.37 1996/3

1996/4/20-24 Washington DC

原著タイトル：

NK immunomodulatory function in 27 cancer patients by MGN-3,
a modified arabinoxylan from rice bran.